

「あやめ池」周辺の荒廃地整備と花木の植栽事業

取組に至る背景・事業の目的

- ①平成 22 年に「全国ため池百選」に選定され、環境整備について地域の関心も高まっていた。
- ②遊歩道整備など村もかわり、木曾川漁協が漁業権を放棄したことにより環境整備がしやすくなった。
- ③会として、平成 10 年以來、自然観察のフィールドとして自然観察や環境保全にかかわってきた。
- ④スゲが繁茂し、ザゼンソウの生育地につながる東奥地一帯も荒れ出した。外来植物も増えてきた。
- ⑤地域の住民と協力しながら、あやめ池本来の生態系の保持に努める。

事業内容

- ①荒れ地の一部を掘り返し、周辺に在来種に近いアヤメ類の植栽をした。
- ②ヤブ刈りと、枯れた立木の伐採をし、ザゼンソウ生育地や周辺のレンゲツツジやカキツバタなどの手入れをした。
- ③地域住民もアヤメ園の手入れとスゲやススキなど周辺の草刈りをし、植栽したレンゲツツジの手入れをした。
- ④周辺の植物・昆虫・野鳥・魚類の調査をした。
- ⑤浄化いかだ 1 基を設置した。



【あやめ池と植栽の手入れ】

事業効果

- ①周辺の環境が整い、訪れる人が多くなった。民宿に宿泊した家族連れも目立った。
- ②6 月頃から野鳥観察のカメラマンが遠方から幾人も来ていた。
- ③植栽したカキツバタ・ハナショウブも咲き始め、草刈り作業に出る人も多く、一人で作業している人も見かけた。地元の関心も高まってきているので、観光客も増えるのではないかと期待されている。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ①近年ザゼンソウが生息していた周辺までスゲが繁茂しはじめ、ヤブも茂ってきてザゼンソウが急激に減少し現在は数株になってしまった。原因は不明であるが、とりあえずスゲを刈ったりヤブ切りをしたりして光が入るようにした。反面、平成 13 年に植えたミズバショウが一ヶ所に生育し 12~3 の花を咲かせた。ともに今後、観察を継続する必要がある。
- ②スゲは景観のうえで必要であると思うが、放置すると池そのものが縮小する恐れがある。定期的に刈り払いをすることも必要であると思うが、適期に大勢で行う機会が取れないのが悩みである。
- ③今年度はスゲが繁茂した荒廃地の一部を掘り返し約 64 m²の池を造成し、周辺に在来種であるアヤメ・カキツバタ・ハナショウブなど約 500 株の植栽をした。
- ④23 年度の活動により、民宿の女将さんの話であるが、「お客さんからも、散歩にいい場所で、水に映る風景がいいと言われる。冬も写真家が何人も来てくれた。遊歩道が朽ちてきたから、もう少し丈夫なものにしてほしい」などといわれた。地元の人も年 3~4 回草刈りをしているが、アヤメをもっと増やしていくといい、と言っている。9 月 30 日、地元の人約 30 人が周辺のスゲを刈ってくれた。
- ⑤自然観察の成果を冊子にまとめる作業を進めている。年内に発行する予定である。

【選定のポイント】

草刈りやアヤメの手入れなどを補助事業後も地元住民とともに継続し、生態系調査の結果を冊子にするなど発展しており、良好な観光資源となることが期待される。

団体名	木祖村自然同好会（木祖村）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	木曾郡木祖村藪原 241-3 澤頭修自 TEL0264-36-2460	事業費	550,277円
メールアドレス	ssawa00@globe.ocn.ne.jp	支援金額	509,000円